

# 2018-19年度ライオン誌日本語版委員会 第8回会議 報告書

日 時：2019年2月6日(水) 13:30～16:00

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)  
国際理事 安澤 莊一 (福島県・白河小峰ライオンズクラブ)  
委員長 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)  
編集長 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)  
委員 渡辺 和廣 (330複合地区／山梨県・甲府シティ ライオンズクラブ)  
委員 渡辺 修 (331複合地区／北海道・美唄ライオンズクラブ)  
委員 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)  
委員 神崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)  
委員 椿 幸雄 (337複合地区／熊本火の国ライオンズクラブ)  
一般社団法人専務理事 高橋 克文 (千葉県・船橋翼ライオンズクラブ)  
一般社団法人理事 太田 健一 (336複合地区議長／岡山県・総社雪舟ライオンズクラブ)  
ITアドバイザー 莊 英隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)  
ITアドバイザー 小柴 登司 (337複合地区／沖縄県・浦添ウエスト ライオンズクラブ) ※オンライン  
欠席者：委員 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)  
ITアドバイザー 辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)



矢野委員長の開会あいさつに続いて、佐藤、安澤両国際理事からあいさつと国際関係報告、日本ライオンズ高橋専務理事と太田理事のあいさつがあり、その後、矢野委員長、稲岡編集長の進行で議事に入った。

## 【議事】

### 1. ライオン誌日本語版の運営 (別紙-上半期決算報告)

2018-19年度上半期の収支計算書を元に会計担当者から説明があった。上半期収入のうち国際協会補助金は予算より約136万円多い20,219,613円 (第2四半期については概算額10,278,238円を計上※実際の入金額は10,241,969円)、一般社団法人日本ライオンズ会費からのライオン誌分はほぼ予算通りの26,961,900円だった。一方、支出の方は予算に比べて印刷版が約117万円少なく、ウェブマガジンはほぼ予算通りだった。その他、委員会旅費が約25万円、理事会旅費が約58万円、それぞれ予算より多くなっている。その結果、上半期は2,119,586円の収支差額が出ている。

#### ●2018年10-12月分国際協会補助金

1月に入金された10月1日から12月31日までの国際協会補助金10,241,969円の内訳を確認した。同期首(10月1日)と同期末(12月31日)の購読対象会員数は90,365人、為替レートは113.34円だった。

### 2. 本誌関係

●2019年3・4月号（2019年2月20日発行）記事内容の確認

事前に送付された3・4月号校正を元に内容を確認した。特集は「小さな町のライオンズ」（稲岡編集長提案）で、331複合地区の渡辺委員から推薦のあった北海道・北竜LCを取材した他、矢野委員長から推薦のあった島根県・隠岐海士LCを含む4クラブから情報の提供を受け、記事をまとめた。表紙は特集で取材した北竜LCの写真で構成。この号に国際平和ポスター・コンテストの各複合地区最優秀作品を掲載している。「国際理事だより：安澤莊一国際理事」、「編集室：渡辺修委員」。330複合地区の渡辺委員、及び333複合地区の渡邊委員から修正箇所の指摘があり、それぞれ校了データに反映させ、会議終了後に印刷会社へ入稿する。

●2019年5・6月号（2019年4月20日発行）台割案

特集は「アラート・プログラム」（神崎提案）で、2月3日に335複合地区の主催で開かれた全国アラート・フォーラムの内容を中心に記事をまとめる。提案者であり、フォーラムにも出席された神崎委員から、アラート・プログラムは地区によって温度差があり、全国レベルで共通認識を持つためにもこうしたフォーラムは継続されることが大切であること、また今回のフォーラムでは各クラブや地区で災害時に即座に使えるアラート基金を設定する提案も出されており、それらの具体的な提言も含めた記事にすることが肝要との認識が示された。表紙はこれまで取材した災害支援現場の写真を使用するか、アラートに関連するイメージ写真で構成する。この号に広島フォーラムの展望記事を掲載することとし、矢野委員長がフォーラム組織委員会の寺越慎一委員長にインタビューを行う。インフォメーションには国際平和ポスター・コンテスト大賞受賞作、第1副地区ガバナー／地区ガバナーエレクト・セミナー、広島フォーラム・ステアリング委員会の記事などを入れ、これらは原稿を入手した時点で、先にウェブマガジンのニュースに掲載する。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：椿幸雄委員」。

### 3. ウェブマガジン関係

●2019年2月号（2月1日更新）出来

2月1日更新のウェブマガジン2月号の出来を確認した。

●2019年3月号以降台割案

3月号から5月号の主要コンテンツについて、内容と取材経費が提出され、承認された。

### 4. 主要記事予定

●2018-19年度主要記事予定

現在まで決まっている主要記事予定を確認した。熊本地震に関しては椿委員からLCIF交付金による復興事業の内容が示され、最終かつ最大の事業である「益城町学校給食センター」への支援を中心に取材することとし、ウェブマガジンのテーマで扱うと共に、LCIF交付金事業の概要については本誌にも掲載する。

●2019年1月取材経費

1月に実施した取材の経費精算額一覧が提出され、確認をした。経費の発生時期について一般社団法人日本ライオンズの高橋専務理事から質問があり、本誌に関しては隔月発行になっているため、取材時及びメインのウェブマガジン公開時とずれて収支計算書に計上されるものがあることが説明された。

●2019年2～2019年3月取材経費概算

2月から3月にかけての取材経費概算が提出され、取材日が決まっていない等、予定が確定していない2件を除き取材を承認した。

## 5. ライオン誌日本語版の方向性

前回会議で実施した集中審議に続き、今回の会議でも各委員から意見を出して頂き、また国際理事及び一般社団法人の理事からも意見を伺った。次回会議で最終的な見解をまとめる。

- 人口減少→会員数減少→会費収入減少という流れが続く中で、ライオン誌はどうか。
  - 1) 会費を増額しても印刷版を維持すべきであり、そのためには読んでもらう努力が必須。毎月何らかの情報を発信する手段としてウェブマガジンも重要
  - 2) 本部の方針に従って粛々と与えられた中で情報発信をすればいい。要は国際理事会方針書の通りに運営していけばいい
  - 3) 将来的な方向としてウェブに進むのは致し方ないが、それでも印刷版は捨てきれない。ただ、収入が減ったら、本部方針の最低ラインである年4回発行まで削減したりページ数を減らして対応するのも止むを得ない
  - 4) 収入減に対し、委員自らが取材や編集に当たって経費を削減するという意見もあるが、クオリティーを保ちながらそれを実現するのは無理。またウェブ会議の活用という話もあるが、現在のシステムでは無理があり時間の無駄になるだけ
- 前回の会議でも多くの委員が論じていたように、ライオン誌に関しては国際理事会方針書にさまざまなことが規定されており、それを逸脱することは出来ない。その中で、理事会方針との整合性を図りながら、一般社団法人日本ライオンズの一委員会としての位置付けをどうするのが重要。
- 現状、読者はまだまだウェブより印刷の方を重視している。またネットに接続する習慣のない人も多い。ライオン誌は情報発信のツールであり、読まれなければ意味がない。ウェブを認知してもらうことが何より重要。

## 6. その他

- 本誌の個人宛て発送を委託している業者から郵送料に関し、4月以降3円値上げされる旨案内があった。個人発送については、委託先の業者がライオン誌も含め取り扱っている郵便物の量を元に郵便局と交渉し通常の料金よりも安価な金額（1部64円）で発送しているが、これが67円になる。割引のある第3種郵便物料金や宅配便よりも安価なので提案を承諾するが、値上げに当たっては各クラブに丁寧に説明する。また、下半期送料については既に請求済みであり、4月20日発行の5・6月号及び6月20日発行の7・8月号分の送料差額（総額約36万円）はライオン誌の経費で負担する。
- ライオン誌サポーター・アンケートが提出された。

閉会あいさつ 矢野敏明委員長

### 【次回以降委員会開催予定】

3月6日(水)	13:30~16:00	第9回会議	日本ライオンズ事務所
4月8日(月)	13:30~16:00	第10回会議	日本ライオンズ事務所